

## 東京練馬から全国へ 農業体験農園パワー

東京23区でもっとも農地面積の広い練馬区。なかでもキャベツの生産量は都内ナンバーワン、また特産品“練馬大根”の復活にも取り組んでいる。農産物を食卓に届けるだけでなく、みどりの保全や景観維持、ヒートアイランド現象の緩和、忙しい日常生活のストレスを癒す場など多面的機能が求められるようになってきた「都市農業」を、区をあげて推進している地域だ。

### ■農家の指導で農業をとことん体験

練馬区で、野菜生産農家白石好孝さんが農業経営の柱の一つとして運営する農業体験農園「大泉 風のがっこう」。行政が主体となる区画貸しの市民農園とは異なり、参加者は園主（農家）の指導のもと、種まきや定植から間引き、草抜き、収穫までの一連の作業を体験する。園主の作付け計画と用意された種苗、資材や農具を利用し、減農薬減化学肥料農法で、1区画30㎡で年間約20種類以上の野菜を栽培。プロ農家の指導により、経験の少ない利用者でも失敗も少なく楽しんで参加できるというのがコンセプトだ。

### ■全国から注目を集める農家経営の新しい姿

平成8年。当時ブームになっていた市民農園でうまく野菜のできない人も多いなか、「自分たちの農場をカルチャーセンターとして利用料や講師料をもらい、店に並んでいるのと変わらない品質の野菜をつくるノウハウを提供しよう」という生産者の友人、加藤義松さんの提案で、農業体験農園を立ち上げた。その後、練馬区から都内へそして関東地域から西へと、開設する農家が増えてきた。各地から視察も訪れる。

農業体験農園が「農業を知りたい」「おいしい野菜を食べたい」という利用者の希望をかなえ、開設する農家の農業経営の柱となるよう農業体験農園の普及と運営に対する協力・支援を目的に22年、NPO法人全国農業体験農園協会を設立し、全国展開することとした。東京都63ヶ所（内練馬区15ヶ所）、全国で88ヶ所のスタートだ。初代会長には加藤さんが就任した。

「自分の農業経営としての農業体験農園の充実が必要」と語る白石さん。「近隣の学校の農業体験を受け入れる農園もたくさんあります。私自身、地元の小学校の社会科や『総合的な学習』に練馬大根など野菜づくりでずっとお手伝いしてきました。そうやって子どもたちや保護者の方たち、体験農園の利用者の方たちと触れ合うなかで、私たち農家の本気で取り組んできたこと、それから練馬区の理解があったことでここまでの広がりにつながったと思います」。

白石さんは全国の農家に向け、「体験農園は地域農業に新しい風を吹かせるための一つの方策」「全国の皆さんが興味を持って農業体験農園協会に参加されることを願っています」と、熱いメッセージを送っている。

☆全国農業体験農園協会 事務所の営業日・時間・連絡先

☆毎週 火曜日・水曜日 午前9時～午後4時（火・水が休日の場合は、次の平日に営業します）

☆住所 〒167-0051 東京都杉並区荻窪2-36-11

☆TEL: 03-6383-5106 FAX: 03-6383-5107

☆E-mail: nouenkyoukai@car.ocn.ne.jp